

平成 27・8 年度 チェーンブランケット事例報告 川崎市立中央支援学校

27 年度 タイコエレクトロニクスさんより「チェーンブランケット 10kg 1 枚」寄贈。

28 年度 インクルーシブより 10kg と 8kg の 2 枚をレンタル中。

Y.T さん（中 3 時） 10kg

導入直後はどういうものかわかってもらうために、落ち着いている時に仰向けになってもらい、教員が身体にかけて安心感を伝えるようにした。慣れてくると包まれる感覚や適度な重量感が心地良く感じたのか、自分からブランケットをかけてほしいと訴えることもあった。不安定になったときには教員がブランケットを見せ、使いたいか尋ねると、最初は「使いたくない」の拒否を伝えることもあるが、数分たつと使いたいと訴えてきたり、自分からブランケットに潜りこんだりして、身体を丸めて動かなくなり徐々に気持ちが落ち着いてくるといった場面が見られるようになった。クールダウンスペースの確保とともにブランケットに包まれることで安心感を高め、落ち着くまでの時間が徐々に短くなった。

S.M さん（中 3 時） 10kg

同じクラスの Y.T さんの使用の様子を見ていて、使用されていないときに教室のクールダウンスペースに自分から行き、「寝る」といって潜り込む様子が度々あった。彼女はすっぽりかぶるというより、頭を出し、様子が見えるように視線は確保していることが多かった。重量があるので、こちらが頭までかけた時でも自分で頭は出し、視線確保をしていた。疲れて休みたいときだけでなく、興奮して床に伏せた状態の時に、そっと掛けてあげるとその場でクールダウンし、穏やかに休んだ後で次の行動に移ることができた。

Y.A さん（中 1） 8Kg

4 月入学当初、学校にもまだ慣れ、教室内で声を上げることもままならず、校内でまだ自分の落ち着ける場がないときに、クールダウンスペース（畳コーナー）で畳をたたいて興奮することもあったが、チェーンブランケットをやさしくかけると、自分で頭からかぶりししばらくすると落ち着き、笑顔になることができた。また、その心地よさを分かってか、自分でチェーンブランケットを取りに行きたいとアピールすることもあった。入学当初の生徒の混乱期にはとても効果的であった。現在は学校にも慣れ、クールダウンスペース以外にも行きたい場所が見つかり、使用しないで平穏な日々を過ごしているが、また年度が替わった時など環境の変化時には必要だと担当者は感じている。

S.Y さん（中 1） 8kg

疲れたり、自分で落ち着きたいときに教室で布団のようにかけて休む姿が見られた。

S.H さん（高 3） 10kg 半分

そわそわしたり「キー」となった時に使うと落ち着いた。今後も使っていきたい。

S.M さん(高 3)・U.H さん（高 3） 10kg 半分

騒いだ時や、不安定な時に使用したが効果はいまいち。チェーンブランケットの意義を理解したうえで、適切な時に、それを受け入れる状況の生徒に使用しないと効果はあまりないのではないだろうか。

O.U さん(高 1)

情緒が不安定で動けない時などに使用。落ち着いてクールダウンすることができた。



教室のクールダウンスペースで



畳コーナーで



廊下で

触圧刺激によるカーダムダウン

学習環境における合理的配慮

スウェーデンで開発されたチェェーンベ

重さを感じることによる抗重力、体をぎゅっと抱きしめるような圧力、肌触りなどの感覚入力によって、「覚醒と鎮静を自らつくり精動をコントロールする」ためにスウェーデンで開発されたチェェーンベ

スト。
そのチェェーンベストを実際に学校教育の現場でどのように活用されているのか、三重県立くわな特別支援学校の近藤宏紀先生にお話を伺いました。

近藤 宏紀 先生
三重県立くわな特別支援学校 教諭

◆ 学習環境を整える

学校で「書くこと」「読むこと」などに過剰な努力をしている子どもたちに、支援具を活用して学習環境を整えることで学習自体に専念できるようにしていきたいという思いが自分の中にも強くなります。

学校で支援具を使う意義とは？

「支援具を何のために使うのか、使うことでどのようなことに繋がっていくのか」など利用する上で大前提となることや「いつ、どの場面を使うのか」といった具体的な使い方について考えていくことが必要です。そのためには、日常的に子どもたちと関わっている私たち教育者が本人・家庭と一緒に模索していくのが一番生活に根差した使い方に繋がっていきやすいと考えたからです。

なぜチェェーンベスト？

以前集中が出来ずに生活に困り感がある方に、重い布団で寝て圧刺激を加えたり、早期療育のケースで抱きしめるような活動をしたときに落ち着いたと聞いたことがありました。チェェーンベストはそれらの要素が考え



られており、集中が出来ずに生活に困り感がある方にも効果があるのではないかと思います。

使ってみようと思ったポイント！

- ①着用して外出した時に、見た目が自然であり身に着けていても違和感がないこと
- ②棄て試すより副作用などの安全性が分かりやすいので安心して使えること
- ③故障したときや使い方で困ったときの相談などのアフターサポートも充実していることも魅力的でした。



◆ 使用後の変化

対象児童は？

試した生徒は、落ち着きがなかったり気が散りやすかったりして作業学習などでなかなか集中して取り組むことが難しい生徒です。教室をパーテーションで区切るなどして視覚的な刺激が入りにくいようにしてみました。そんな時にチェェーンベストを見られませんでした。そんな時にチェェーンベストを一度試してみたいと考えました。

導入はどのように？

チェェーンプランケットをまず使用してみて、自立活動の授業でリラクゼーションの取り組みを行い、そこで利用すると非常にリラックスして、会話などのやり取りがこれまでよりもスムーズに行うことが出来ました。そうした時にチェェーンベストも届き、作業学習の時間を中心に利用しました。

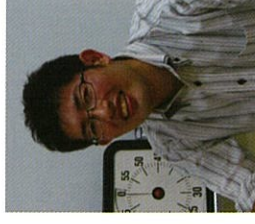
結果はいかがでしたか？

利用し始めると学習中に立ちあがることがや声が出てしまうことが減り、集中して取り組める時間が増えて効果が見られました。

導入の際には、着るかどうかは本人自身が必要と感ずるかどうかを知りたかったので、自分が決めるように自主性を重んじることにしました。

すると毎日ある作業学習に、ベストだけは欠かさず身に付けてきて驚きました。作業学習時の発言や集中力については、作業内容に慣れてきたというのもあると考えられますが、こうして環境を整えることで生徒が集中して取り組める時間が増えてきたことは教員としてとても嬉しいことでした。

今後もし生徒たちにこうした合理的配慮を行うことで、学習・生活環境を整えてよりよい生活に繋げて行きたいです。



将来的には感覚だけでなく調整していくことで、学校や家庭だけでなく社会の中でも利用し、活動範囲が広がったり生活の改善に繋がったりしていくことまで出来たらいいなと思います。